I-21

レム・コールハースのダイアグラムの変容に関する研究
A　study on transformation of Rem Koolhaas's diagram

○永井雄介[1]、山中新太郎[2]
*Yusuke　Nagai[1]、Shintaro　Yamanaka[2]

1. はじめに

1-1. 研究背景

90 年代以降の建築においてダイアグラムというものの存在が単にプレゼンテーションのためのツールという役割を越え、建築の設計段階や空間生成に深く関わってきている。

ダイアグラムというものは本来建築を説明する役割を果たすものとして使用されてきた。いわばそれは建築を設計した後で描かれるものであり、建築の設計段階とは距離を置いた存在であった。しかし近年ダイアグラムが建築の設計段階においても関わってきているように思われる。近年の建築を見ると、建築の形態がダイアグラムのように表現されたものがあり、それはダイアグラムがそのまま立ち上がったような印象さえ受ける。そのような建築が生み出されるようになった現状にはどのような背景があるのだろうか。元をたどるとレム・コールハースの登場が大きな影響を与えていることがわかる。

写真 1. CCTV

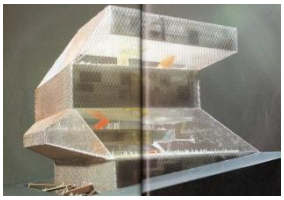


写真 2. シアトル公立図書館

写真 3. ラ・ヴィレット公園

写真 4. フランス国立図書館

1-2. 研究目的

本研究の目的はレム・コールハースのダイアグラムというものが、配置図、平面図、断面図に代わる建築の思考の場として、設計の中でどのような役割を担うのか、また、それによってつくられた建築はどのような特徴を持つのかということを考察する。

1-3. 研究対象

OMA では 2014 年現在までに 320 件の建築に関係するプロジェクトが行われている。研究対象としては現在出版されている書籍の中から編集されたダイアグラムが掲載された 1982 年から 2012 年までの作品のダイアグラムを対象とする。1982 年から 2012 年までの建築作品のうち、作品に関するダイアグラムが掲載されているものを抜粋し、それらの作品により考察を行うこととする。

表 1. 対象作品

No.	作品	計画年
1	ラ・ヴィレット公園	1982
2	Centre International D`Affaires	1988
3	フランス国立図書館	1989
4	アルメラ都市再開発	1994
5	セオール国際空港	1995
6	マコービック・トリビューン・キャンパスセンター	1997
7	ジェノバ・ポート	1998
8	プラダ・サンフランシスコ・エピセンター	2000
9	クイーン・ジュリアナ・プラン	2002
10	コルドバ・コングレス・センター	2002
11	NATO本部	2002
12	シアトル公立図書館	2003
13	コーネル大学ミルスタインホール	2006
14	クールシンゲル	2008
15	BMVR	2010
16	MAI	2011
17	ガレージ・ゴーリキー・パーク	2012

1：日大理工・学部・建築　2：日大理工・教員・建築

2. ダイアグラムの分析

2-1. 分析の概要

この章ではダイアグラムではどのような要素を抽出し、対象としていて、その対象としているものに対してどのような操作が行われたかということを把握するための作業を行う。

2-2. 分析の方法

① 「対象としている要素」

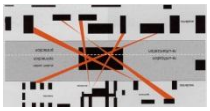
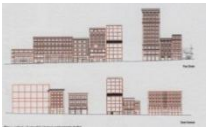
② 「対象と関係づけられる部分」

③ 「そこで行われた操作」

の 3 つの項目に沿って分析していく。

分析項目の①は建築で扱うべき要素や解決すべき事柄（採光や展望、都市との関わりなど）についてであり、②はその要素に対して建築のどの部分（配置、形態、用途配列など）で答えているのかということである。③ではその部分で具体的にどのような操作をしたのかということを書き出している。

表 2. ダイアグラム分析表

No	ダイアグラム	図に描かれた情報
1		①街との関係 ②配置、ボリューム ③道の一部となるように配置
2		①場のアクティビティ ②ボリューム ③網目状に設定
3		①コンテクスト ②構造 ③周辺のパターンに合わせる

2-3. 考察

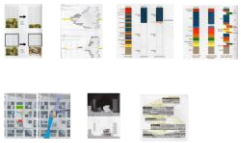
ここまでいくつかのダイアグラムを見てきた中で、ダイアグラムの特徴として寸法やスケールが省略されていることが挙げられる。このことからダイアグラムというものは関係性をデザインするためのものだと言うことも出来る。

3. 展望

3-1. 設計におけるダイアグラムの役割の変化の考察

この章では 2 章において行なったダイアグラムの分析を元に、それが設計過程においてどの段階（設計の初期段階か、ある程度建築の輪郭が出来上がってからかなど）で登場するのか、設計全体においてダイアグラムがどのような役割を果たしているのかなどを考察し、それをダイアグラムが登場した 1982 年から現在までの 30 年間においてどのように変化してきたのかということをみる。

1988　Centre International D'Affaires

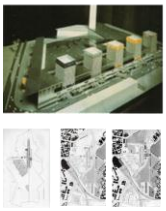


2004 シアトル公立図書館

図 5. 設計過程とダイアグラムの関わりの変化

3-2. 建築物の変化の考察

3 章ではダイアグラムというものが設計方法に与えた変化を考察することを目的としていたのに対し、この章ではその設計方法における変化が最終的には出来上がる建築物のデザインとしてどのような違いにあらわれてくるのかということを考察する。



1988　Centre International D'Affaires

2004 シアトル公立図書館

図 6. 初期の作品と近年の作品のデザインの違い

3-3. 結論

今回建築の設計手法のひとつとしてのレム・コールハースのダイアグラムを研究することで、現代における建築設計手法のあり方を考える。近代以降の建築においてどのような切り口により建築を考えることが出来るのか、それを今後考えていくことをスタートさせるための始めの題材としてこのテーマを研究する。

4. 参考文献

・El Croquis OMA Rem koolhaas 1987-1998

・El Croquis OMA Rem koolhaas 1996-2006

・a+u 建築と都市 a+u2000 年 5 月号臨時増刊 OMA@work. a+u